

# 県外派遣審判員報告書

作成日31年4月1日

大会名	全国ミニバスケットボール大会	会場	高崎アリーナ
期間	平成31年3月28日～30日	報告者	千々岩 知佳
スケジュール			
期日		内容	場所
27日	17:45	インテグリティ講習会	メインアリーナ
	18:15	審判会議	審判控室
28日	8:45	2POメカニクス 講義(漆間大吾氏)	
	10:30	実技研修	
29日	9:00	実技研修	
	ゲーム終了後	映像研修	
30日	9:00	実技研修	

## レクチャー・審判会議の内容

・インテグリティについて  
 JBAからの資料にそって。  
 選手(子どもたち)がコートの上でより良いプレーが出来るように、協力してあげること、周りで見ている人たちがどうおも  
 うのかを考える。  
 傲慢ではだめ、イリーガルな振る舞いに対しても肅々と。ただし、コミュニケーションが大事。(監督)今のファールじゃない  
 の？ 審判)今のはファールじゃない はコミュニケーションではない)キーワードをもとにショートアンドクリア(具体的に)。ク  
 レームは気にしない。しかし、質問に対してはきちんと対応をするように。  
 ルールブック、ガイドラインに則って。相手がベテランだからとかは関係ない！クルーチーフメンタリティを。選手のためを  
 思ってジャッジをするように。

### 審判会議

マンツーマンペナルティ=テクニカルではない。1回目の赤旗で警告。2回目の赤旗で1回目のマンツーマンペナルティ。  
 審判は手をあげて「マンツーマンペナルティです」と言ってから2ショットに入る。コーチテクニカル(C)2つで退場。マンツ  
 マンペナルティ(M)3つで退場。

ge-mu	割り当て	女子 岡山県 対 岐阜県	主・副	相手	荻原(神奈川)
-------	------	--------------	-----	----	---------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

ルールの確認、メカニクス、プライマリーの確認、インテグリティ・マンツーマンペナルティの確認・処置の確認、エリア3  
 での協力、キーマン予想

### ○ゲームの実際

岡山の方が全体的にも大きく、スピードもあった。リバウンドやルーズボールの所での体の寄せ方やが気になった。後  
 半、岐阜の同選手が2回連続でバイオレーションを取られ、その選手に対しての監督の指導(指示)が気になったが、私が  
 居たところからでは遠く、何と言っているのか聞き取れなかった。(インテグリティの可能性大)それ以外は特に大きなトラブ  
 ルはなく、協力して進めることができた。

### ○ゲーム後 主任 勝原氏 (山口県A級)

ヘルドボールの時に近づいてみてしまっている。良い位置・アングルを意識して。  
 岐阜の監督の指導が気になったから、一回ワーニングをいれても良かった。(審判のジャッジに関して言っているわけ  
 はないから、比較的行きやすい対象であった)

ge-mu	割り当て	男子 青森県 対 神奈川県	主・副	相手	久田(兵庫)
-------	------	---------------	-----	----	--------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

1日目の反省と個人の課題の共有。  
 時計の管理は、リードが吹く(時計がトレイルの背中ごしになった場合)  
 神奈川県監督所要のため、不在(押さえがきかなくなる可能性も考えておく)

### ○ゲームの実際

両チームとも展開が早く、ドライブが多いチームだった。1Q神奈川のトラベリングを吹いた後、別の選手がボードにボー  
 ルをぶつけた様子があり、久田さんがワーニングをいれた。トラベリングのシグナルをしている時も、選手に目を当ててお  
 く必要があった。始めは青森の勢いがあったが、徐々に神奈川ペースになり、青森のエースがイライラする様子が多々あ  
 り、4Q中盤に2番エリアからドライブを起こし、アームをシリンダーを犯していったため、チャージング(2人とも)の判定を  
 とった。

### ○ゲーム後 主任 山岡(神奈川県A級)

リードの時に3番に目がいつていることが多いから、外から中にボールが移動した時に対応が遅れてしまう。

青森のチャージングのケースは、イライラしていた様子もあり肘をつかっていたのでパーソナルよりアンスポのケースであった。

ge-mu	割り当て	女子 大阪府 対 千葉県	(主)副	相手	赤塚(山形)
-------	------	--------------	------	----	--------

○ゲーム前(プレカンファレンス)  
ルールの確認, メカニクス, プライマリーの確認, インテグリティ・マンツーマンペナルティの確認・処置の確認, エリア3での協力, 両チームの特徴

○ゲームの実際

ゲーム前に映像で両チームの特徴を確認していたので, 1Qのスタートに両チームとも手を使ったファールがあり取り上げたためテンポよく入ることができた。千葉の方が力があり, 2Qの途中で大阪の選手の表情が晴れなくなり, 気にしながら進めていたが, タイムアウト後に一名泣きながらコートに出てきた。ハーフも様子を見ていたが, 監督の言葉に涙を流し3Qどういう風になるのかパートナーと話をしながらむかえた。3Qは少し力が回復し, 頑張りだしたが悪い手も出てくるようになった。大きなトラブルはなかったが, レフリーとしてもう少し何かできたのではないかと, そういう意味で心残りのあるゲームであった。

○ゲーム後 主任 山本氏(三重県 2019年度S級)

良かったところ

二人とも, 情報を持ちながら進めることができ, テンポセッティングができていた。

判定をするときに必ず止まって判定をしていた。

改善すべきところ

ショットクロックの管理の意識が薄かった。困ったときほど冷静に判断できるように。

リードの時に, 2・3番から4番の方にドライブが起こった時に離れて広がって広まっている傾向が多い。そういうケースもあると思うが, 2・3歩入り確認が出来る位置取りを。

全体を通しての感想

今回, 初めての全国大会であり, あれほど大きな体育館に行ったのも初めてでした。6年生にとっては小学校生活最後の大会であり, そういう大会にたちあうことができ大変嬉しく感じました。特に最終日は, ゲームが終わってから監督の言葉を聞き, 涙を流している選手も多く私自身, 色々考える機会にもなりました。

初日の漆間さんの講義や, 映像研修, インテグリティ, マンツーマンペナルティを特に意識しゲームに臨みました。講義の中で漆間さんが, 「積極的に」という言葉を何度も使われていました。積極的にできた部分と出来なかった部分とあったので, 出来なかったことを理解して次に実践出来るように研鑽を積みたいと思います。

最後に開催権である群馬県バスケットボール協会の皆様には大変お世話になりました。そして, 今回の派遣にご配慮いただきました本県審判長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様にお礼を申し上げ, 本大会派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。